

アルコール関連問題啓発フォーラムの実施について

◆概要

日 時：平成 29 年 11 月 13 日（月）午後 1 時 30 分から 4 時

場 所：大阪市中央公会堂 大集会室

参加者：約 300 名

プログラム：

- 開会挨拶 健康医療部長、
厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課アルコール健康障害対策推進室室長補佐

- テーマ：『あなたの大切なものを守るために』
～アルコールによる健康障がい、家族への影響を考えよう～

- ◆基調講演 「酔うと化け物になる父と暮らして～家族が抱えている思い～」
漫画家 菊池真理子氏

◆シンポジウム

- 上村真也氏 コーディネーター（読売新聞社記者 伴走記連載）
- 菊池真理子氏（漫画家）
- 辻本土郎氏（東布施クリニック院長）
- 桂 歌之助（落語家）
- 浅井 登（堺市東断酒会）

- ◆その他 リカバリー・パレード関西実行委員会コーラス隊

- ◆相談会、ロビー展示（ポスター、リーフレット等にて啓発コーナー）

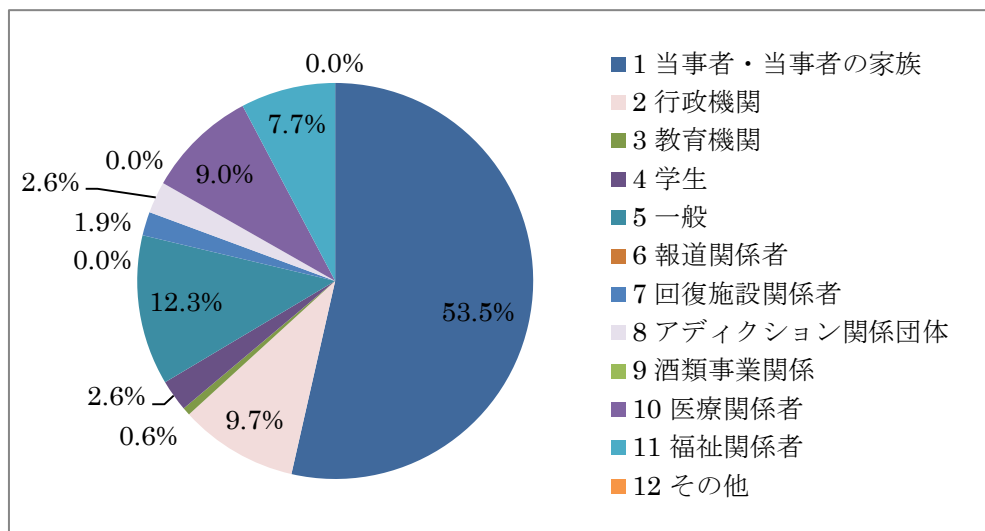
- 第 1 会議室：相談会 （午後 2 時から 4 時）

共催：厚生労働省、大阪府、大阪市、堺市

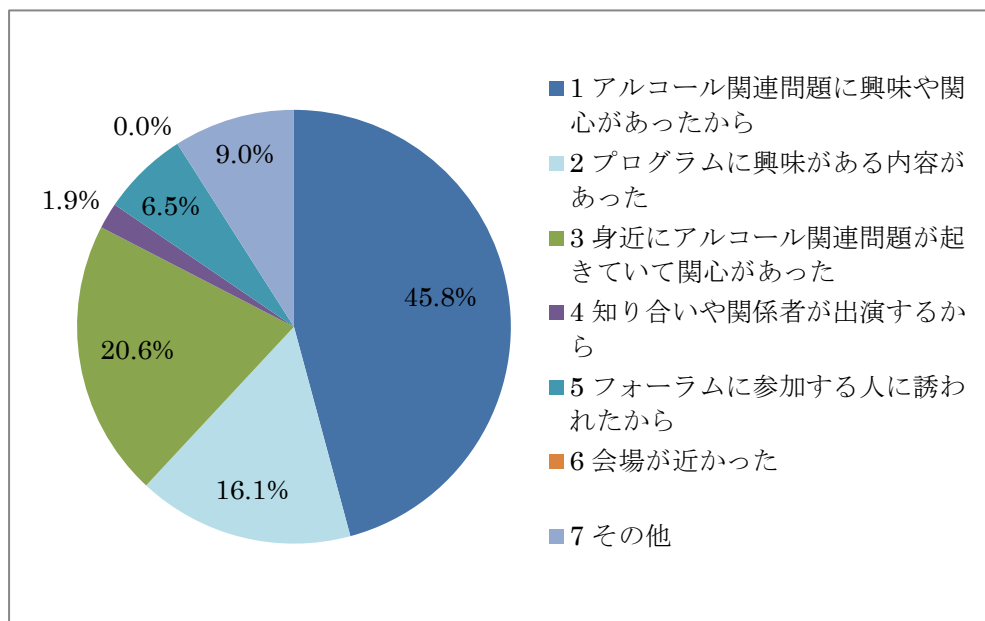
後援：大阪精神科病院協会、大阪精神科診療所協会、大阪府断酒会、秋田書店、読売新聞社

◆アンケート集計の抜粋

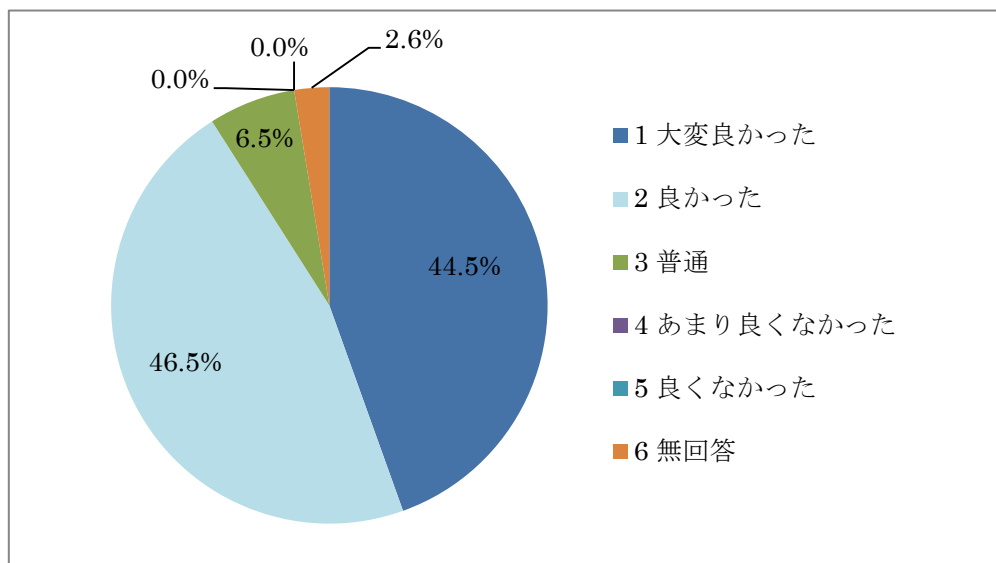
1. 参加者の状況



2. 参加されたきっかけはなんですか



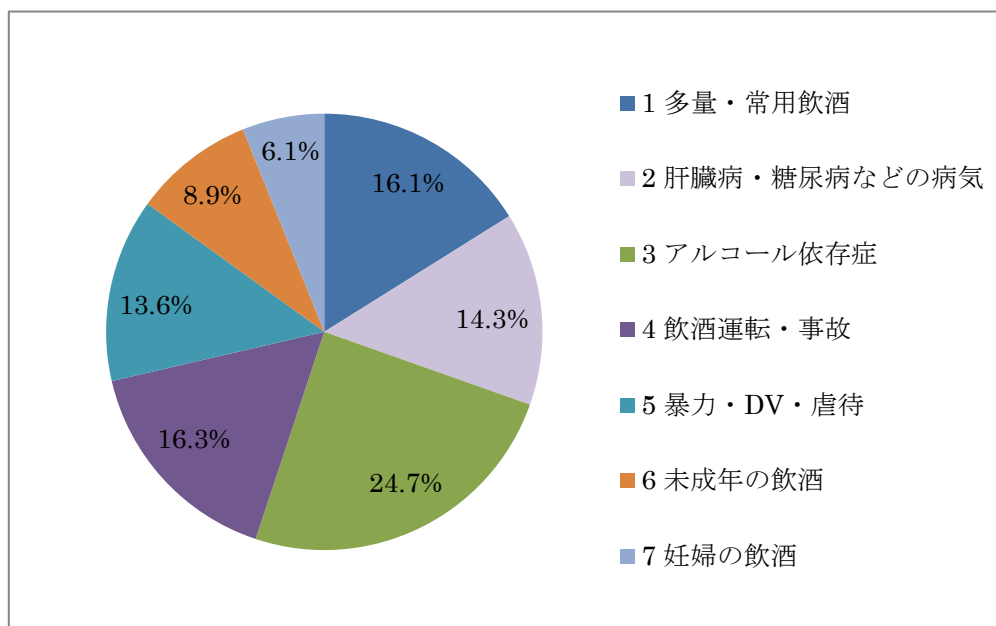
3. フォーラムはいかがでしたか



4. 関連啓発週間をご存知ですか

選択肢	回答者数	%
1 知っている	155	81
2 知らない		65
3 無回答		9
		52.3%
		41.9%
		5.8%

5. アルコール関連問題と聞いて思い浮かぶものは



6. 意見や感想

- アルコール依存症は今までは治らないものと思っていたが、回復できると分かり、興味がわいた
- 社会生活を送れていても依存症である可能性があることを初めて知った
- アルコール問題は世間の評価が低いので、こういったフォーラムが行われるのはよい
- 浅井さんの社会が依存しているという話がよかった
- アルコール依存症が身近なものであることに驚いた
- 交通事故などアルコール関連問題への対処としてフォーラムを有意義に活用できればと思った
- 途中で帰ってしまうかと思ったが、最後まで参加してしまった
- アルコールに関する日本の文化の見直しが必要だと思った
- 断酒会での体験談の言うだけ、聞くだけとは異なり、ディスカッションはよかった

6. 本フォーラムを通してアルコール関連問題に関する理解が深まったと思いますか

選択肢		回答者数	%	
1	思う	155	138	89.0%
2	変わらない		3	1.9%
3	その他		3	1.9%
4	無回答		11	7.1%

7. 今後、国、地方自治体、民間企業等関連団体が検討、取り組むべき内容

- 小学生からのアルコール教育、飲酒の怖さや問題
- 依存症全体の発症メカニズムや経済的損失などを学校教育での取り組みとしてほしい
- 大量飲酒とアルコール依存症の違いが本当は無いということをもっと訴えてほしい
- 依存症になっても治療すれば回復するという希望的な情報
- 酒は百薬の長でもあるが、酒害を全面的に訴えていくべき
- 一般の人、病院での依存症者に対する偏見や差別の解消
- 誰でもなる可能性がある、武勇伝ではないなど、啓発活動をもっとしてほしい
- 認知症や虐待、高齢者問題と同様に地域や自治体でサポートできる仕組み
- 会社の健康診断後、専門医などを選択できるようにしてほしい
- 家族が別れる前に治せるようになればDVや虐待、非行、貧困なども減るのでは
- アルコールに限らずクロスアディクションも含め脳・体への影響を子どもに教育するべき
- 企業は生産者としての責任をもっと意識してほしい